

# 『植木枝盛文庫』展について

同志社大学図書館

植木文庫は、土佐の自由民権家として有名な植木枝盛の旧蔵書で構成されている。この文庫は、植木の死後明治26年の春、彼の友人・先輩、特に片岡謙吉（立志社の幹部、第一回帝国議会衆議院議員、後に衆議院議長、明治35年同志社総長）や、徳富猪一郎（同志社の卒業生、当時“国民の友”発行）等の努力により、大学設立募金運動のなかばに倒れた新島襄の、遺志を生かすべく、同志社に寄贈された。当時、既に開設されていた小室・沢辺文庫（何れも自由民権家）と共に、有終館（現存）2階の図書室に設置された。

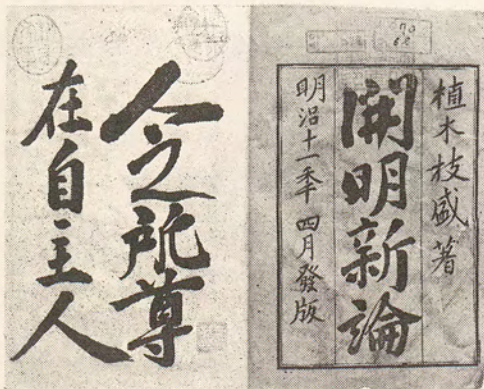
明治26年6月806冊で発足し、翌27年7冊追加されて813冊になった。植木枝盛の旧蔵書としては唯一のものである。

植木文庫を主題別に見ると、社会科学・政治・法律関係の図書が360冊で約半分を占めている。

ついで、哲学関係歴史・地理関係が多い。現存している冊数は679冊である。現在手に入り難い明治初期の図書が多数ある。枝盛は外国語に弱いので、本文庫中に外国書は一冊もない。そのかわり翻訳書をかなり購入し、彼はこれら翻訳書から海外の知識を得た。植木枝盛は自伝、及び日記を書き残しているので、植木文庫の図書の多くが、その購入時期及び閲読時期を知ることが出来る。彼の蔵書は大きく分けて三つに大別出来る。(1)明治6年、東京に出る迄、(2)衆議院議員に当選する迄、(3)25年1月、東京で病死する

著作権の都合上、一部を非公開しております。

閲覧を希望される場合は図書館所蔵資料をご利用ください。



迄の三つの時期に分けられる。

(1)には漢籍が多く、(3)には議会関係の図書が多い。

枝盛が丹念に読み、傍点や欄外に感想や字句を書込んだ本が多い。彼がどうい  
う所に関心を持ち、如何なる所から影響を受けたか興味が深い。彼の思想形成に  
何らかの役割を果たしたと思われる図書の一部を紹介する。

「西国立志編」 スマイル著 中村正直訳 明治10年2月出版

「民選議院論綱」 山田俊蔵編 明治8年4月出版

「自由原論」 トークヴィル著 肥塚龍重訳 明治12年11月出版

「国憲汎論」 ブランチュリー著 加藤弘之訳 明治9年4月出版

「法学講義節約」(上下) オーステン著 大島貞益訳 明治13年6月出版

「泰西国法論」 ヒッセリング述 津田真一郎訳 慶応4年出版

文庫の中に  
彼の筆になる  
写本3冊があ  
る。(1)馬場辰  
猪の「日英条  
約論」、福沢  
諭吉の「分権  
論」及び津田  
真一郎の「泰  
西国法論」(3  
巻・4巻)で



何れも明治  
8年から11  
年の間に筆  
写されている。

文庫に雑  
誌「愛国志  
林」10冊と  
「愛国新誌」  
20冊を合冊  
製本したも

のがある。「愛国志林」は明治13年3月、愛国社が大阪で発行したもので、植木  
枝盛がその編集人になった。「愛国志林」は11号から「愛国新誌」と改題された。  
枝盛はこの雑誌にかなりの情熱をそそいだ。その記念のためか、この製本は豪華  
で、背に植木蔵書と刻印され、白紙約6頁に「経国之大業不朽之盛事」と筆で書  
入れがしてある。

植木枝盛の著作で、植木文庫開設当時の図書目録に記載されている「言論自由  
論」「土陽雑誌外2種」「立志社始末」「植木枝盛略伝」の4冊が現在所在不明  
である。これらの本が現存していれば植木文庫にさらに花をそえたであろう。片  
岡謙吉日記によると「植木枝盛略伝」は明治27年7月高知に渡り、同志社に帰ら  
ず、昭和20年高知で戦災に会い鳥有に帰した。

植木文庫は当初一般図書と独立して設置されていたが、何時の日か、一般図書

と混配排架されたので、利用や保管の点で問題があった。今回同志社創立100周年に際して、別置排架し同時に冊子目録を刊行することになった。

(植木枝盛と同志社について)

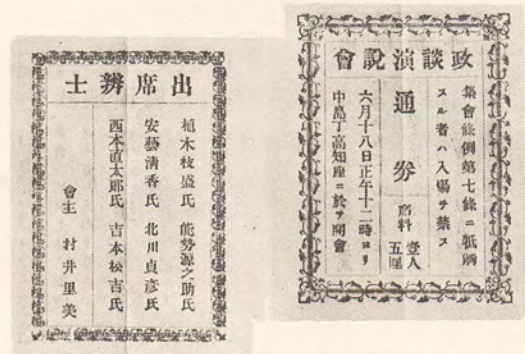
植木枝盛は、彼の短い生涯に於て二度も同志社を訪問し、新島襄と会っている。最初は明治11年9月26日、彼が22才の時、前日同志社創立者の一人である山本覚馬を訪れている。同志社は創立後3年目で校舎、設備未だ不十分な時代であった。彼が同志社を訪問したのは彼の意思であるのか、誰かにすすめられて訪問したのか不明である。日記によると大阪で開かれた愛国社再興会議に出席のため来阪中、9月22日京都に入洛し、28日大阪に帰った。2回目の訪問は明治21年11月16日で、午前中は円山で徳富猪一郎、金森通倫と共に食事し、午後1時同志社を訪問し、女学校、本校予備校、看病婦学校、図書館等を巡覧し、午後4時、新島襄が生徒総員をチャペルに集め、私立大学設立のことについて話しをした後、新島襄の求めにより、生徒全体に一場の演説をした。演説内容については不明である。

植木枝盛の著作(単行本のみ、新聞雑誌は省く)

- |            |           |            |               |
|------------|-----------|------------|---------------|
| 明治11年4月22日 | ○開明新論     | 明治18年5月9日  | ○慷慨義烈報國纂録     |
| 明治12年4月    | 民権自由論     | 明治20年11月2日 | ○新詩歌自由詞林      |
| 明治12年11月   | ○赤穂四十七士論  | 明治21年7月23日 | ○國民組織國民大会議    |
| 明治13年7月    | 言論自由論     | 明治22年9月13日 | ○目下之問題 条約改正如何 |
| 明治14年3月    | 板垣政法論     | 明治22年9月28日 | 東洋の婦女         |
| 明治15年2月    | 民権自由論二編甲号 | 明治24年6月2日  | ○第一期帝國議要録     |
| 明治16年1月    | 天賦人權弁     | 明治25年2月2日  | 第二期帝國議要録      |
| 明治16年12月   | ○通俗無上政治論  |            |               |
| 明治17年3月    | ○一局議院論    |            |               |
- (○印 図書館所蔵)

(植木枝盛の略年表)

安政4年1月 土佐国井口村に生れた。  
 父は高知藩の武士であった。  
 明治4年7月 公費で致道館に入学した。  
 以前は藩校文武館に学んだ。  
 明治6年2月 致道館閉鎖のため東京の海南私学に入学したが、程なく退学した。以後、独学で勉強するこ



明治 20. 6. 18 高知における演説会入場券

とになった。明六社や慶応義塾の演説会、キリスト教の説教を聴きに行った。

- 明治9年2月 郵便報知に「猿人政府」なる記事を投書し、それがもとで2カ月の刑を受けた。
- 明治10年2月 板垣退助の帰郷に従って高知に帰り、立志社に入り、以後政治活動に従事した。
- 明治10年8月 海南新誌の編集に従事した。
- 明治11年9月 愛国社再興第一回会議に出席した。
- 明治13年8月 愛国志林の編集に従事した。
- 明治13年8月 愛国社は国会期成同盟と改名した。
- 明治13年12月 有志のみで自由党を結成した。
- 明治14年8月 高知新聞が愛国新誌を合併、枝盛がその主幹となった。
- 明治14年10月 自由党と国会期成同盟が一本になった。
- 明治15年5月 全国酒屋会議を淀川に開き、酒税軽減請願書を作成した。
- 明治15年8月 福島自由新聞の編集に従事した。
- 明治15年8月 馬場辰猪のあとをうけて自由新聞の編集をうけもった。
- 明治17年10月 自由党大会で解党が決定され、国会期限短縮建白書を起草した。
- 明治19年1月 高知県議員に当選した。
- 明治20年1月 高知県下で一年間演説を禁止された。
- 明治20年7月 徳富蘇峰と高知で会い、以後交友がつづき、“国民の友”に投稿した。
- 明治22年5月 東京で大同団結の大会が開かれ、枝盛は政社論者と共に大同倶楽部を創立した。
- 明治22年 彼は婦人問題について意見を発表するようになった。
- 明治22年7月 大隈外相の条約改正案に対し反対演説を行なった。
- 明治23年5月 板垣退助の愛国公党の創立に協力し大同倶楽部を脱会し、愛国公党の創立に参加した。
- 明治23年5月 愛国公党等三党が合同し、康寅倶楽部を創立した。
- 明治23年7月 第一回衆議院議員総選挙で当選し、代議士となった。
- 明治23年8月 愛国公党が解散し、立憲自由党が創立された。
- 明治24年1月 弥生倶楽部総会に於て壮士の為負傷を受けた。
- 明治24年2月 枝盛等土佐派が立憲自由党を脱党し、自由倶楽部を組織した。自由倶楽部の賛成により予算修正案が可決された。
- 明治24年3月 立憲自由党が自由党と改名された。
- 明治24年11月 第二回帝国議会が召集された。
- 明治24年12月 衆議院が解散された。
- 明治24年12月 自由倶楽部員が自由党にもどった。
- 明治24年1月 1月1日発病し、1月23日東京病院で病死した。ときに36才であった。

(植木枝盛の経歴については家永三郎著「革命思想の先駆者」略年譜より作成)